

2008年8月19日

平成20年12月期 中間決算説明会

株式会社メディビックグループ

(証券コード2369 東証マザーズ)

メディビックグループ 会社概要

資本金	20億5,839万円（2008年6月末現在）
設立	2000年2月17日
本社	〒105-0003 東京都港区西新橋2-11-6 ニュー西新橋ビル5F
代表取締役	橋本 康弘(易周)
公開市場	東証マザーズ（証券コード2369）
主な事業内容	バイオマーカー創薬支援事業、テラーメイド健康管理支援事業、創薬事業

持株会社

株式会社メディビックグループ

上海事務所（中国）

グループ企業

関西ラボ

株式会社メディビック

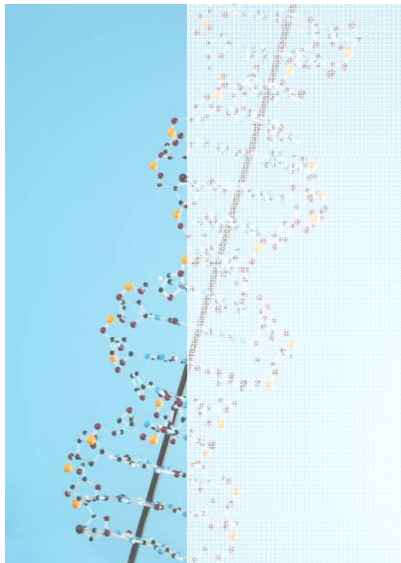
株式会社サイトクオリティー

MediBIC Life Sciences, Inc.

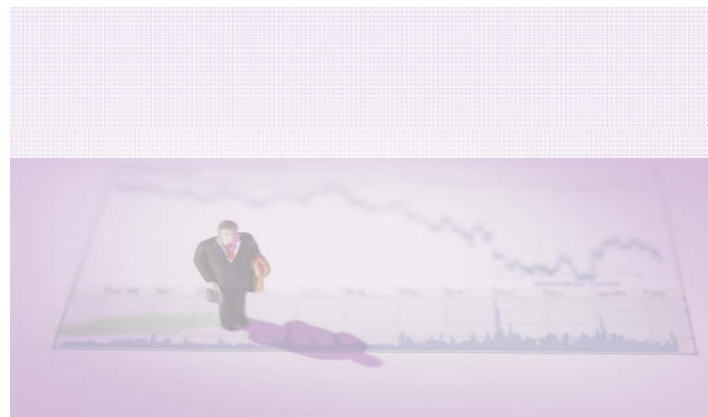
株式会社メディビックファーマ

株式会社Asia Private Equity Capital

メディビックグループ 創業理念



個人に適した テーラーメイド医療の 実現を目指す



中間決算報告

2008年12月期中間の決算総括

△事業は、順調に進捗

•売上高 172百万円

(対公表数字36.0%、45百万円増、

対前年同期比△440百万円減・・投資・投資育成事業スピンオフによる)

•営業損失 207百万円

(対公表数字61百万円改善、対前年同期比290百万円改善)

▼株式会社Asia Private Equity Capital(持分法適用関連会社)に係る損失

持分法投資損失として営業外費用425百万円の計上

•経常損失 618百万円

(対公表数字359百万円増、対前年同期比95百万円増)

•当期純損失 644百万円

(対公表数字384百万円増、対前年同期比121百万円増)

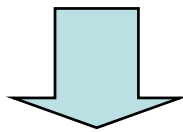
事業は順調に進捗するも、関連会社に係る損失を計上

株式会社 Asia Private Equity Capital(APEC) に係る 投資損失の計上について

【背景】

2004年4月、株式会社メディビック・アライアンス(APEC)を100%子会社として設立。ライフサイエンス企業を対象とした投資・投資育成事業にて急伸したが、2007年7月、事業面でのシナジーが薄れてきたことなどにより、同社増資を行い、当社持分比率が25%に低下、持分法適用関連会社となった。同社に対する貸付金残高は8/15現在、約12億円。

今期の同社業績は、今期末～来期にかけてIPOが有望視される投資先を数社保有しているものの、市場低迷などにより、約5億円の債務超過に陥っている状態。



監査との協議により、上記現状を厳格に鑑み、以下の会計方針の適用が妥当との判断となった。

<<持分法会計に関する実務指針>>(会計制度委員会報告9号)

※～事実上、会社(当社)が関連会社(APEC)の債務超過額を負担する可能性が極めて高い場合、当該債務超過額については**全額**会社(当社)に負担させなければならない～

債務超過額相当額を持分法投資損失として計上

2008年12月期 中間連結業績

(単位:百万円)

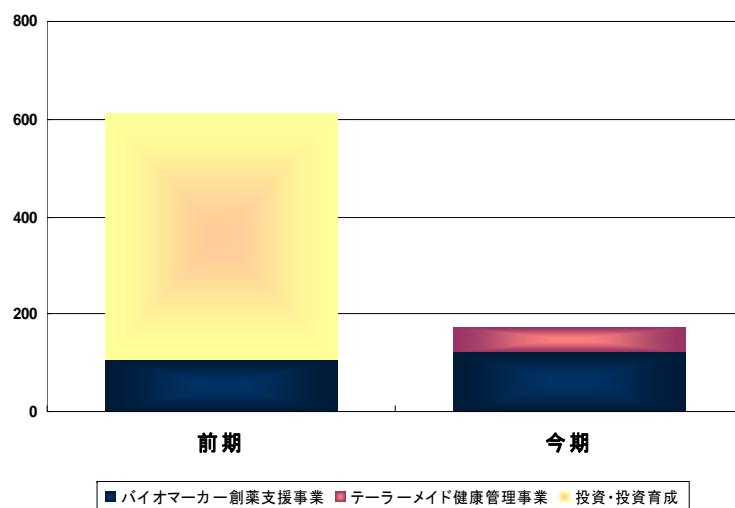
	2007年 中間期	2008年 中間期	差異	08年中間期 公表数字
売上高	613	172	△440	127
バイオマーカー 創薬支援事業	105	123	+17	—
テーラーメイド 健康管理支援事業	—	49	+49	—
投資・ 投資育成事業	507	—	△507	—
売上総利益	△50	74	+125	—
営業利益	△498	△207	+290	△269
経常利益	△523	△618	△95	△259
当期純利益	△523	△644	△121	△260

前期の投資・投資育成事業スピンオフにより、売上は大幅減だが、売上総利益・営業利益は改善。しかしながら、営業外費用にAPECに係る持分法投資損失の計上を行った。

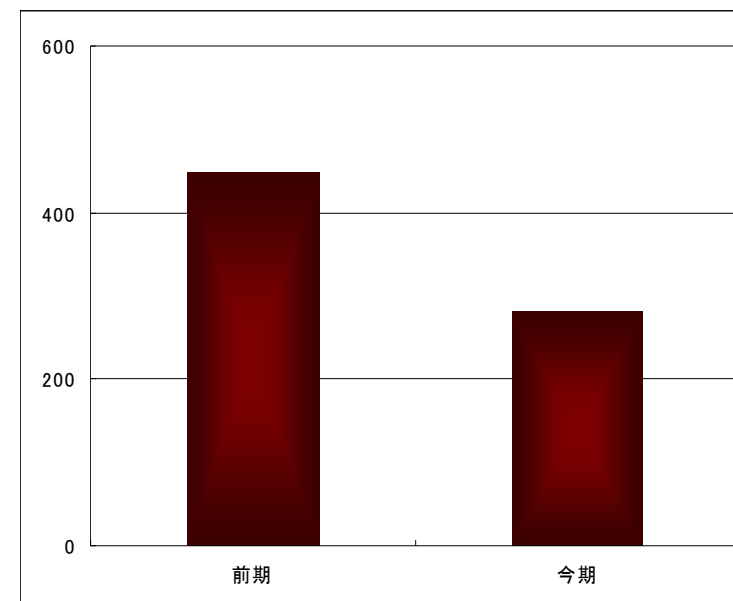
セグメント別売上と販管費の推移

(単位は全て百万円)

売上高の推移



販管費の推移



バイオマーカー創薬支援事業 …… 売上高 +17%増。売上総利益も増加

テーラーメイド健康管理支援事業 …… 今期よりセグメントに追加

個人対象の健康・医療サービス

投資・投資育成事業 …… 前期スピンオフ

販管費 …… 前期に比し、165百万円(36.9%)削減。投資事業スピンオフなど、様々な経費削減施策による

上期 事業の報告

創薬事業（グルフォスファミドの開発状況）①

国内第 I 相臨床試験

医療機関における試験および解析終了

試験結果

最大耐量 (MTD)

6,000mg/m² (海外の試験と同用量)

臨床推奨用量 (RD)

4,500mg/m² (海外の試験と同用量)

薬物動態 (PK)

海外の第 I 相試験結果とほぼ同等

創薬事業 (グルフォスファミドの開発状況) ②

抗腫瘍効果

13例投与中 PR 1例(胆のう癌)

SD 7例(大腸癌他)

他剤で無効例の胆のう癌の患者では 顕著な効果、転移リンパ節の病巣の消失も観察

他剤で無効例の大腸がんや胸腺腫において癌の拡大阻止を観察

今後の開発

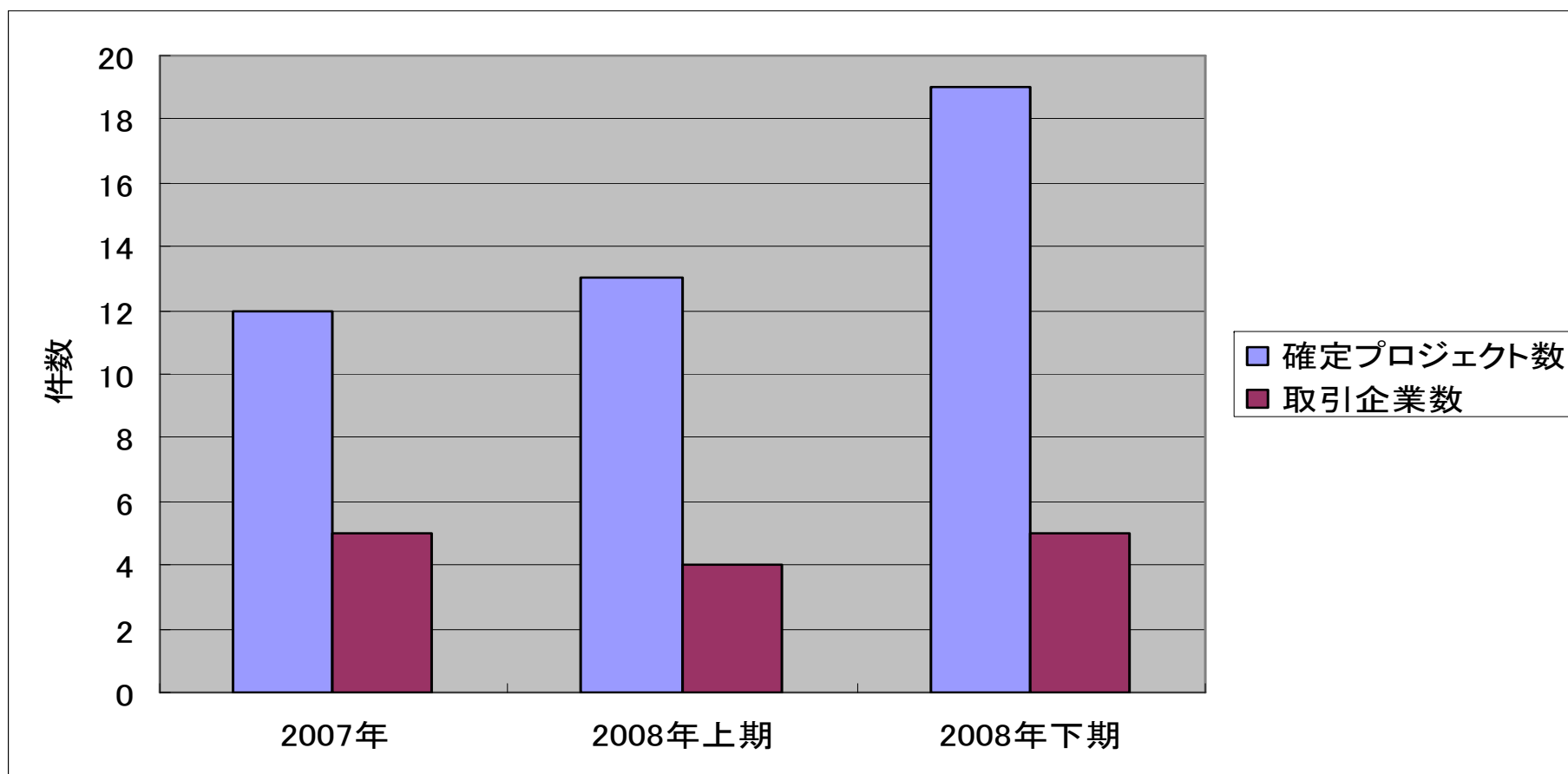
ライセンスを視野においた共同開発の協議中

バイオマーカー創薬支援事業 ①

- **PGxトータルソリューションサービスの状況**
遺伝子解析サービス(解析ラボ)の本格開始
ISO 9001 取得
- **システム開発・データ解析**
日本医大との共同研究においてメディビック薬効予測
技術を活用し、抗がん剤効果を推測
→同様の薬効・副作用予測の事業を展開中(研究所)
→類似アルゴリズムを用いたデータ分析を複数企業
に提供中

バイオマーカー創薬支援事業 ②

～PGx受託プロジェクト進捗～



治験区分: 第Ⅰ相試験、第Ⅱ相試験、第Ⅲ相試験

テーラーメイド健康管理支援事業

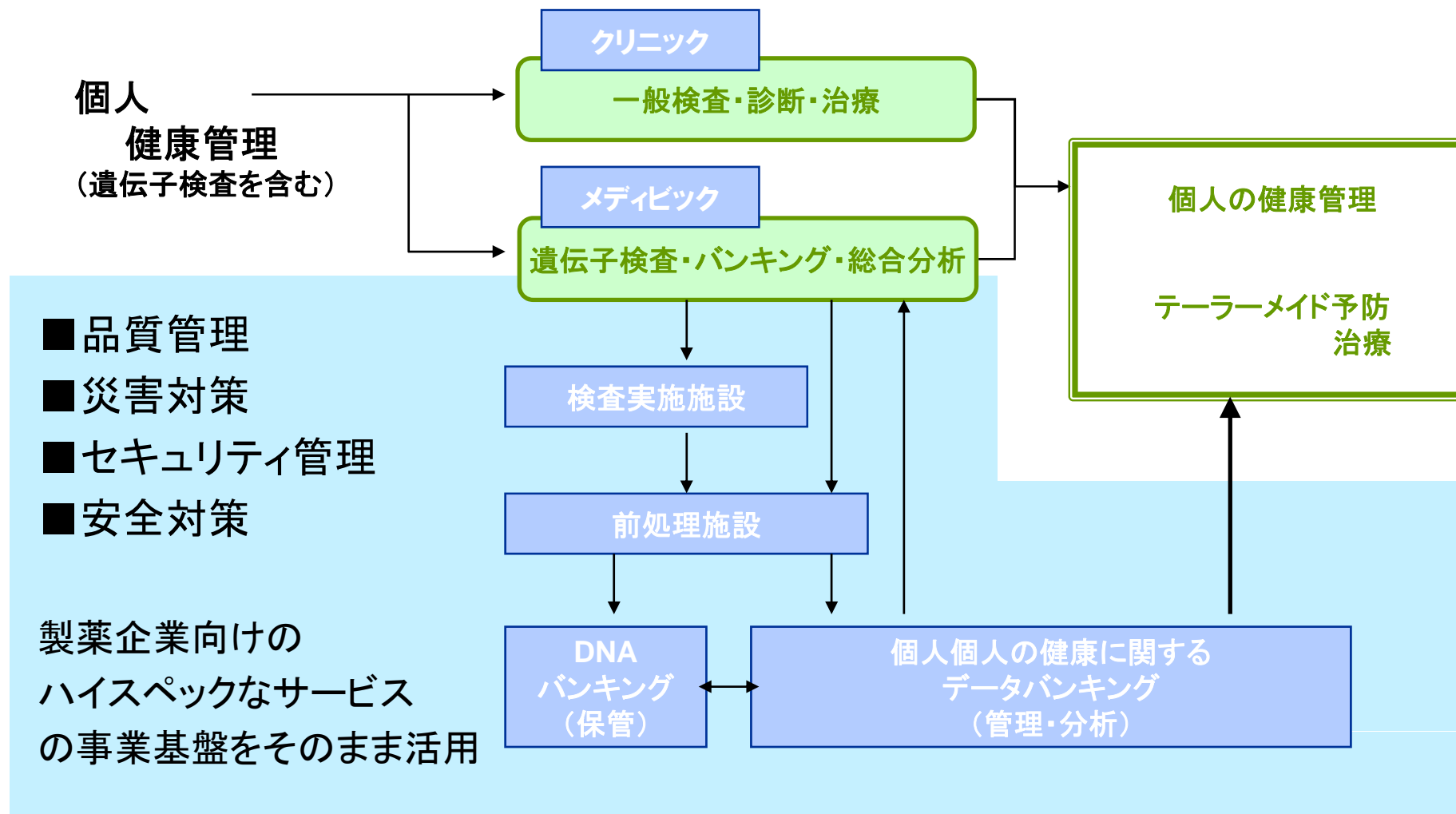
- **DNAプライベートバンク事業**

遺伝子検査を個人の健康管理に提供
PGx 事業の事業基盤を活用
継続的な健康管理支援事業
クリニックとの共同健康支援

- **健康管理支援事業**

テーラーメイドサプリ・ヒアルロン酸・水など、健康管理支援製品等の販売

DNAプライベートバンク ① ~PGx事業基盤活用~



DNAプライベートバンク ② ～事業コンセプト～

従来型健康管理

健康診断を軸とした疾病の早期発見・早期治療目的の“点”での健康管理。
“パッシブサービス”



早期発見・早期治療＝健康取り戻し



健康コンシェルジュ

疾病の危険性変化に対する予防目的の“線”での健康管理。
“アクティブサービス”



疾病予防＝健康維持



DNAプライベートバンク ③ 概要 1

一人ひとりの体質に合わせた健康管理サービス

DNAプライベートバンク

クリニックや医療機関と連携した会員サポート

医療機関で採血



DNA抽出 DNA検査・解析



ドクターからの
カウンセリング



DNA・データ保管

各種企業と連携した健康管理の
フォローアップサービス

新薬開発支援事業の
プラットフォームを利用



MediBic



DNAプライベートバンク ④ 概要2

- 15項目の遺伝子検査
- 遺伝子の保管
- 医師による予防指導
- 年会費
- 健康管理・予防関連商品の販売
- 会員制（1年間のフォローアップ・健康コンシェルジュによる健康管理支援）
- 富裕層向け健康管理サービスを目指す

通期の見通し

2008年12月期 通期の見通し(8/13修正)

(単位:百万円)

	2007年 実績	2008年 予想	差異
売上高	780	410	△369
バイオマーカー創薬支援 テーラーメイド健康管理支援	273	410	+137
投資・投資育成	507	-	△507
営業利益	△825	△378	+447
経常利益	△868	△922	△53
当期純利益	△1,314	△933	+381

バイオマーカー創薬支援事業、テーラーメイド健康管理支援事業ともに期首計画通りに推移する見込。さらなる経費の節減・合理化により、赤字幅の縮小に努める。

補足資料

腫瘍縮小効果の判定基準

(「固形がんの治療効果判定のための新ガイドライン」より抜粋)

CR(完全奏効): 全ての標的病変の消失

PR(部分奏効): ベースライン長径和と比較して標的病変の最長径の和が30%以上減少

PD(進行): 治療開始以降に記録された最小の最長径の和と比較して標的病変の最長径の和が20%以上増加

SD(安定): PRとするには腫瘍の縮小が不十分で、かつPDとするには治療開始以降の最小の最長径の和に比して腫瘍の増大が不十分

MediBic

www.medibic.com

◇ 当資料取り扱い注意点

本資料に記載されている、当社または当社グループに関連する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、事業の認識、評価などといった、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の日付時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。

また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に係わらず、常に当社が将来の見通しを見直すとは限りません。これらの記述ないし事実または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり将来実現しないという可能性の原因となりうるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。